

企画セッション

人間の諸活動と自然環境間の相互関係の構造分析と手法について

長野 章（水産庁計画課）

目的：

人間社会は自然環境に規定されて成立している。産業と生活・文化は森林、河川、海等の自然環境との相互関係の中で成立し、その相互関係により社会の構造が規定される。

このような社会・経済・文化・環境システムの下での関係者の意識構造の把握、行為の意志決定及び問題への対策を検討するに際し、このシステムを構成する多数の要素間の相互関連を把握しなければならない。一般的にシステムを構成する要素の数は多く、しかも構成要素間の関連が流動的であり、その変動を引き起こす要因が技術、政策、人間の価値観など多様で複雑である。

本セッションの目的は、自然環境と社会の構造、農山漁村の社会的問題の構造及びその他種々の要素を原因とした総合化された問題等を多要素から構成されたシステムとして捉え、その構造分析と分析手法の検討を行う。

内容：

本セッションで発表される内容は次の通りである。

1. 複雑な社会・経済・文化システムの構造把握手法について
門間敏幸（東京農業大学教授）
2. 北海道サロマ地区における環境社会システムの構造分析について
児玉いずみ、松本卓也、（（財）漁港漁村建設技術研究所）
本田耕一（在マレーシア JICA 専門家）、長野章（水産庁）
3. DEMATEL 法による環境社会システムの構造分析手法について－要素抽出と被験者選定に関する考察
児玉いずみ、松本卓也、（（財）漁港漁村建設技術研究所）
本田耕一（在マレーシア JICA 専門家）、長野章（水産庁）
4. AHP 法による漁業後継者対策の構造分析手法について
古屋温美（（株）パシフィックコンサルタント）
児玉いずみ、松本卓也、（（財）漁港漁村建設技術研究所）、長野章（水産庁）
5. 地域活性化要因の構造分析－沖縄県伊江村を事例にして－
山口 晃、後藤英明、須田誠治（（財）農林水産長期金融協会）
6. DEMATEL 法を用いた河童伝説の構造分析の試行
近藤隆二郎（滋賀県立大学教授）
7. P C M参加型計画手法による棚田保全戦略の分析
山中英生（徳島大学）、澤田俊明（建設材料試験所）、上月康則、鎌田麿人（徳島大学）
石田健一（東京大学）、山口行一、田中祐一（徳島大学）
8. システム分析法による山村・漁村の環境社会システムの分析－青森県大畑町を例として－
木村宰、清野聡子（東京大学大学院総合文化研究科）